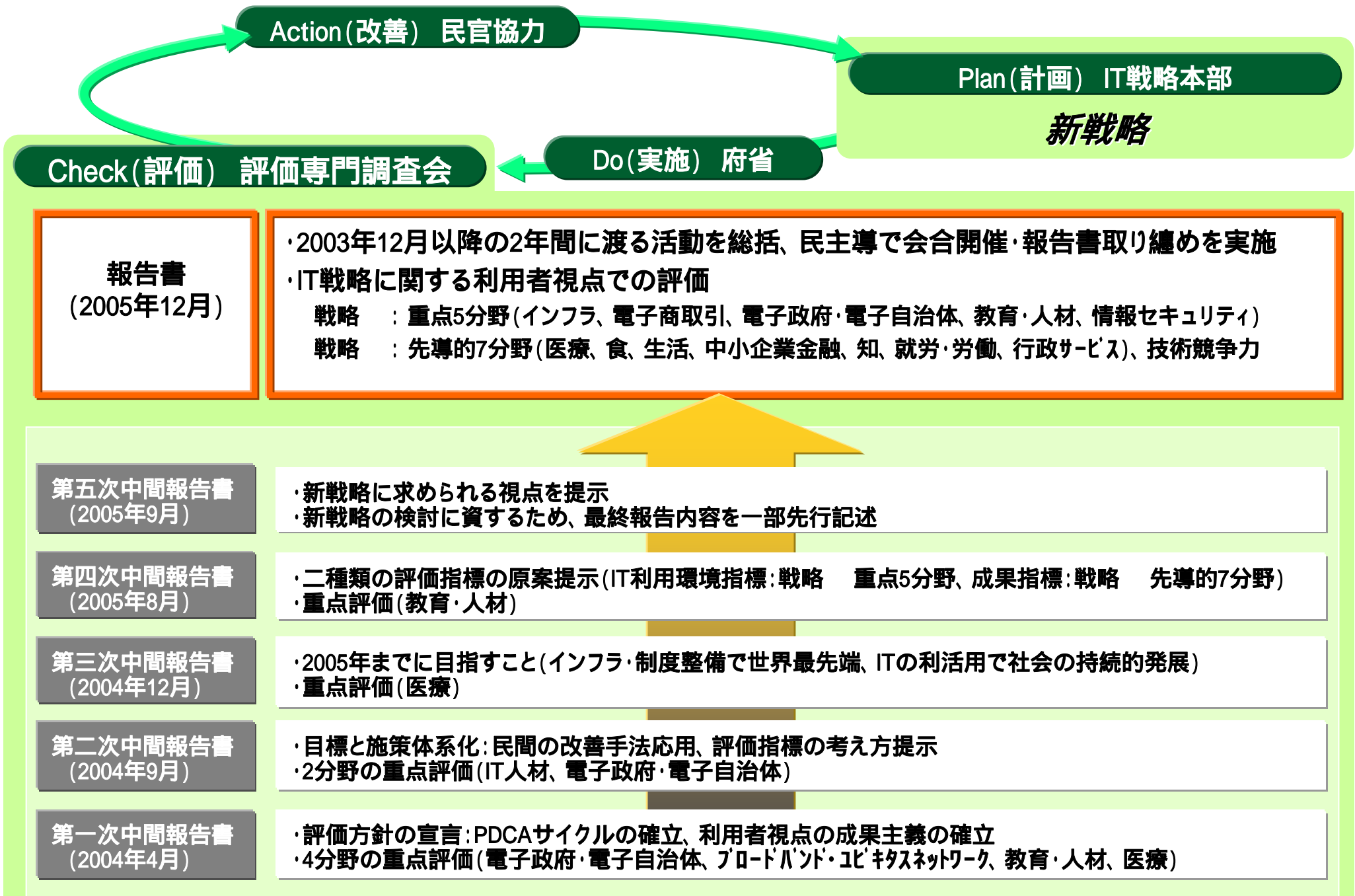


# 評価専門調査会報告書の概要

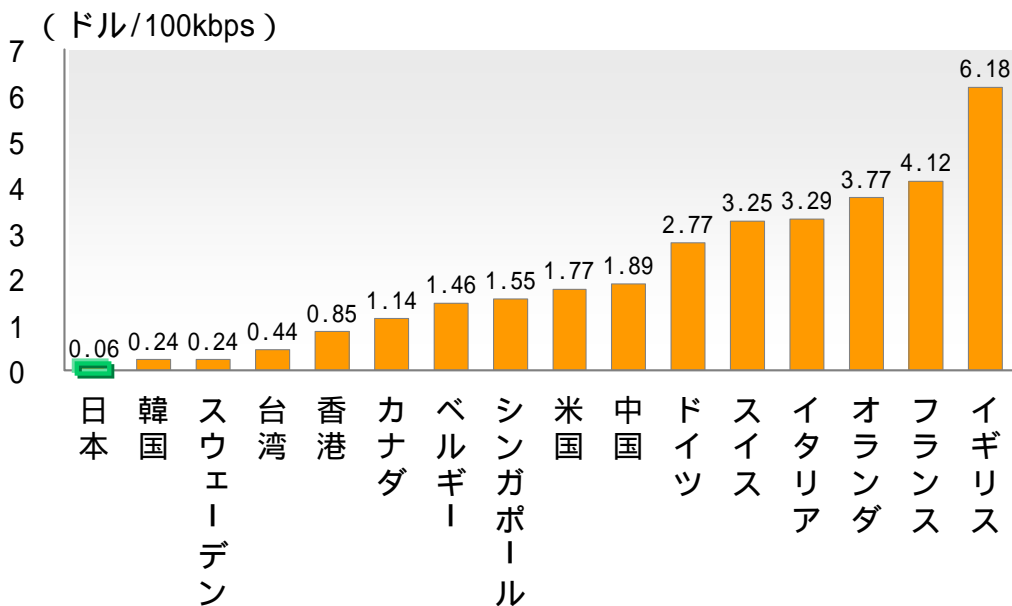
2005年12月8日  
評価専門調査会



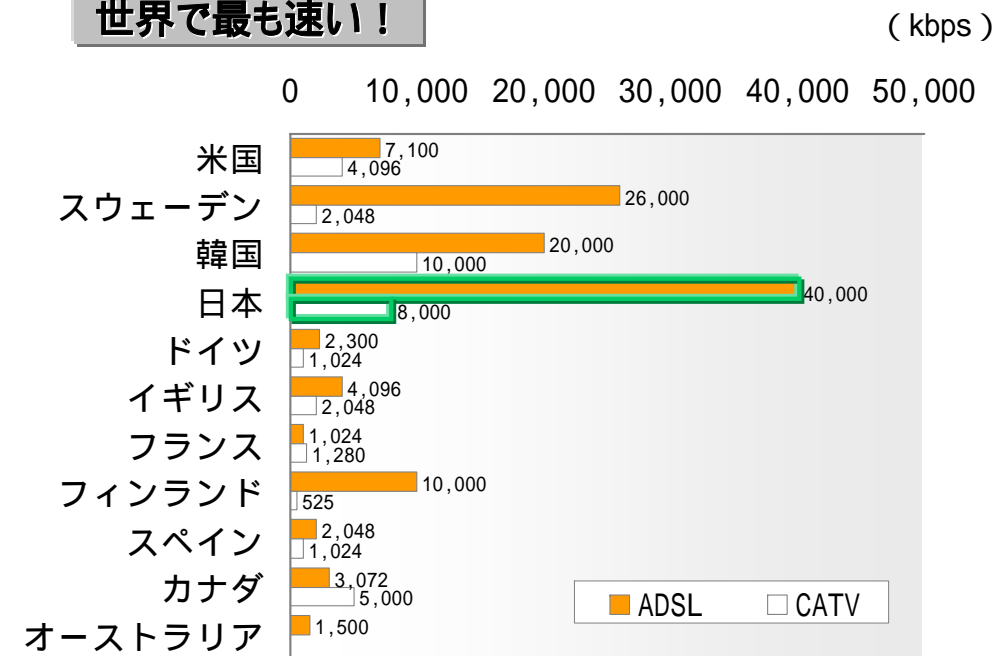
## < 第一章 先端から先導へ > より抜粋

我が国のIT戦略は、インフラを中心として世界最先端と言える基盤が整った今、世界最先端に追いつく局面から、21世紀のIT社会の構築において世界を先導すべき局面に転換しつつある。IT戦略の取り組みはそれを宣言できるだけの実績を挙げてきたと言っていいだろう。

### 世界で最も安い！



### 世界で最も速い！



不断の改革の具体的なあり方を構想するにあたって、基本となるのが利用者視点の成果主義である。IT導入自体を自己目的化させることなく、ITが利用者にかなる恩恵をもたらすかをしっかり見据えた舵取りを行うことが肝要である。

分野	総合評価
インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争政策の成功の結果、価格、機能、多様なサービス提供の面で世界最先端と言えるブロードバンドネットワーク整備が実現</li> <li>・加入や利活用の状況は十分とは言えず、デジタル・ディバイドやネットワークの脆弱性も課題</li> <li>・民主導の原則を維持しつつ、ユビキタスネットワーク社会にふさわしいインフラ整備の推進と、過疎地等でも多様な手段でブロードバンドの利活用を実現する取り組みが必要</li> <li>・我が国の先導的な地位を確保するためにも、電波政策を中心として機動的かつ柔軟に政策を展開すべき</li> </ul>
電子商取引	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の電子商取引市場は米国に次ぐ世界第2位の規模に発展</li> <li>・異なる業界間や中小企業間での利活用促進や利用者視点を重視したサービス提供、法制度・ルール整備が今後の課題</li> <li>・紙や印鑑を用いた商取引の見直しも必要。利用者視点を強く意識したビジネスモデルの構築を推進</li> </ul>
<b>電子政府</b> ・電子自治体 (行政サービス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界でも先端的な電子政府の基盤が構築され、電子自治体も整備中。利便性実感やITを利活用した国民参画の拡大が課題</li> <li>・最適化計画策定、CIO、CIO補佐官制度導入等、推進体制整備は進展。費用対効果を念頭に置いた業務効率化は実現途上</li> <li>・CIOが自ら情報リテラシーを高めることが必要。IT利活用による抜本的業務改革の推進、民間活力の積極的活用も不可欠</li> </ul>
<b>教育・人材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内LAN整備やブロードバンド化、IT利活用して指導ができる教員育成は不十分。IT指導力の教員評価への反映等が重要</li> <li>・人格形成を意識した情報リテラシーや情報モラルへの対応、関係者による自主的な有害情報対策の推進も不可欠</li> <li>・図書館等の情報提供機能の強化、遠隔教育を活用した生涯学習の推進が必要</li> <li>・産業界と教育・研究機関間の人材ミスマッチが深刻。国際競争力を持った高度IT人材育成に向けて産学官連携を強化すべき</li> </ul>
情報 セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣官房情報セキュリティセンターを中心に、民官連携の下で中長期計画の着実な遂行に期待</li> <li>・ネットワーク関連犯罪が増加しており、対策の強化が喫緊の課題</li> <li>・ネットワークの不適正な利用を民主導で解決するための環境整備が必要</li> <li>・安心・安全なネットワーク環境実現に向け、国民のセキュリティ意識の啓発や国民や企業の自主的努力への支援が不可欠</li> <li>・十分な情報セキュリティ対策を実施するためにも、関連技術者、研究者の処遇の適正化や学ぶ意義の明確化が重要</li> </ul>

## 国際的位置付け評価

- 先端的な電子政府基盤が整備され、電子自治体の基盤も整備進行中であるが、利用者に恩恵が実感されず
- 最適化計画策定、CIO・CIO補佐官制度の導入は評価に値。行政自ら目標と現状とのギャップを認識し、解決策を実行する体制の確立は途上。IT投資の総額に対して、費用対効果の検証が不十分

## 課題の所在

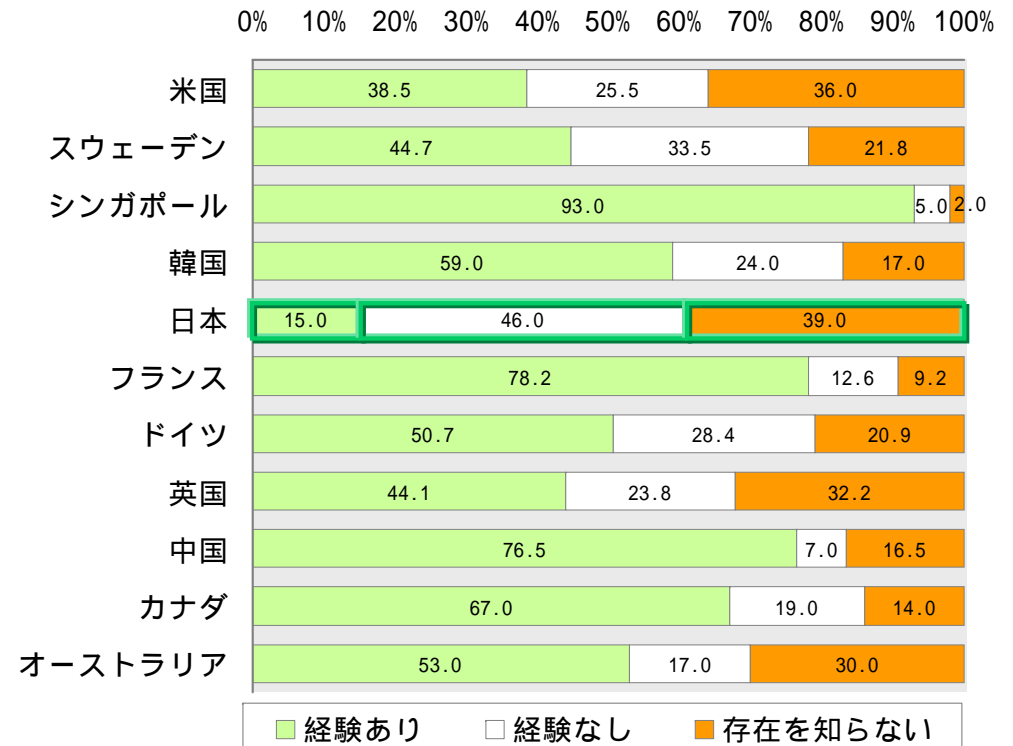
- 既存手続きの見直しが不十分なため、添付書類の問題等が存在
- 組織の縦割りが全体最適化の障害。部門間で重複する業務の見直しに必要な業務の可視化と、プロセスの見直しが急務

## 今後に向けた提言

- 国民が利用しやすいように複雑な手続きを簡素化。特に、再入力をなくすという観点から、一連の手続きの見直しが必要
- IT利活用による業務改革を進め、民間活力の積極的活用も視野に入れ、行政全体としてのスリム化・最適化を推進

## 政府の代表ポータルサイトへアクセスしたことがありますか？

「経験あり」はわずか15%



## オンラインによる申請・手続の利用状況

全体では利用率81%

恩給、社会保険関係手続等の汎用的電子申請システムに限ると0.7%

### 国際的位置付け評価

- ・校内LAN整備やブロードバンド化の進捗状況、ITを活用した指導ができる教員の数は、国際的に見て不十分
- ・新卒採用社員の基礎学力や問題設定能力の不足、問題意識や創造性の欠如等、人材の質の低下に懸念

### 課題の所在

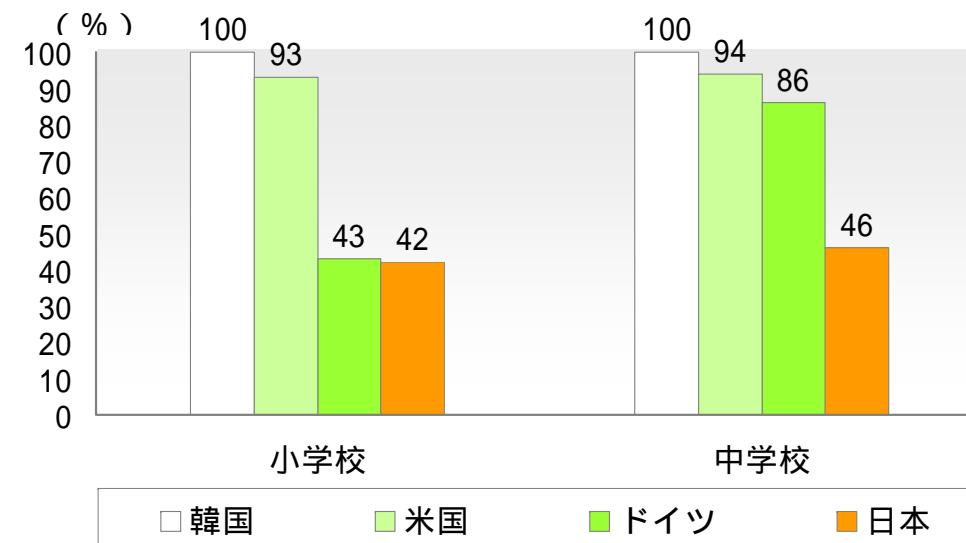
- ・IT利活用の重要性が社会全体に浸透していないため、対応に遅れ。地方財政の悪化も一因
- ・企業は企業内教育(OJT)を前提に社員を採用してきたため、求める人材像を教育・研究機関に十分には伝えず

### 今後に向けた提言

- ・教員、保護者、地域内の関係者の協力の下、地域と連携した取り組みを促進。ネットデイ等の取り組みも含め、あらゆる手段を講じて校内LAN整備を強力に推進
- ・専門職大学院の創設、インターンシップ制度拡充、産業界からの講師派遣、大学教員の企業留学、共同研究推進等、高度IT人材育成における産学官の連携を促進

学校における校内LAN整備状況に課題が残る・・・

<小学校> 日本:42% <中学校> 日本:46%



ITを活用した指導ができる教員の割合

<小学校> 英国:87% 日本:84% <中学校> 英国:82% 日本:68%

IT関連修士・博士課程修了者数は増えているが・・・

修士 99年:12,650人 03年:15,706人 博士 99年:1,568人 03年:1,924人

## < 先導的7分野 >

分野	総合評価
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITの利活用による医療機関の情報開示と情報の質の改善が重要</li> <li>・電子カルテの普及を自己目的化させず、患者が複数医療機関において、継続性ある治療を受けられるようにすることが不可欠</li> <li>・医療だけでなく健康管理でも情報利活用できるよう、関係機関の連携に必要な情報の保存、蓄積、利用のルール柔軟化に期待</li> <li>・完全オンライン化と紙出力・再入力撲滅により、医療機関から保険者まで電子化されたデータ利活用を進めることが喫緊の課題</li> <li>・山間僻地・離島等への遠隔医療サービスの普及には、インフラ整備と人材育成が必要</li> <li>・ITの利活用により、良質な医療を効率的に提供するという目標に立ち返り取り組むことが重要</li> </ul>
食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内飼養牛は法律により義務付けられたが、他については任意な取り組みとなっており、トレーサビリティの実現は道半ば</li> <li>・流通過程におけるネットワーク化は緩やかに進展しているものの、効率化の観点からシステムの相互運用性の確保が課題</li> <li>・トレーサビリティにより食品の付加価値向上、輸出市場における競争力強化等、国際的視点での取り組み推進が重要</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急通報と見守りサービスは普及が不十分。安価で簡単なホームネットワーク、情報家電、関連サービスの開発が必要</li> <li>・災害等の緊急通報・連絡システムは様々な連絡・通信手段の特性を活かし組み合わせ、総合的に安全性を確保することが重要</li> <li>・非常用電源の確保や職員の訓練等、周辺対策を促進することも不可欠</li> </ul>
中小企業 金融	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業の信用保証の利用に係る事務手続きオンライン化を目指し、電子手形実証実験等、電子債権の取り組みも推進中</li> <li>・資金調達環境の改善に関して、ITの利活用によって成果が挙げられているとは言えず、引き続きこれからの取り組みに期待</li> <li>・戦略 策定時には想定していなかった方策が登場していることに鑑み、目標実現の手段について適宜見直すことも一案</li> </ul>

分野	総合評価
知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツ市場は拡大しているが、産業競争力は高いとは言えず</li> <li>・コンテンツ自体は世界的に高い評価を受けており、関係者が一致団結してその振興に取り組むことが重要</li> <li>・資金調達やコンテンツの二次利用に関する契約上の課題解決に向け、利用者視点でのサービス提供を前提に取り組み促進</li> <li>・デジタル化や新規の情報流通形態に対応したルール作りも必要</li> </ul>
就労・労働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・転職関連の情報提供はインターネットを通じて飛躍的に増加し、ITが情報入手の面においては貢献</li> <li>・雇用者の機動的な人材配置や労働者の技術・技能の習得等、求人・求職ニーズの不一致の解消が重要</li> <li>・テレワークには、情報漏洩、労務管理の課題があり、制度や業務プロセスの見直しが必要</li> <li>・インターネットを利活用した起業は進んでおらず、情報提供や労働福祉環境の整備を含めた取り組みが課題</li> </ul>
行政サービス	*「電子政府・電子自治体」参照

## < 技術競争力 >

分野	総合評価
技術競争力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デバイスや情報家電、光ネットワーク等、個々の分野では技術競争力があり、製品開発で市場を先導</li> <li>・近年、中国や韓国等の追い上げが激しく、基礎技術を含めた技術競争力の強化を図ることが喫緊の課題</li> <li>・産業競争力の向上や収益力の改善のためには、研究開発の投資回収サイクルの立て直しが必要</li> <li>・デファクトを重視した技術標準化の推進、中小企業、ベンチャー企業、教育・研究機関の持つ独創的技術の戦略的取り込み、次世代を担う若手技術者、研究者の育成も不可欠</li> <li>・戦略的に選択と集中を行い、育成したい産業の目指す姿を明確にした研究開発のロードマップを描くことが重要</li> <li>・誰もがITを利活用できる環境を構築していくことに期待</li> </ul>



### 利用者視点での成果の進捗状況

- 医療機関における情報発信に進捗が見られるが、IT活用による一層の情報開示と情報の質の改善が必要
- 医療機関や関係機関間での、一貫した電子データの利活用が不十分

### 課題の所在

- 戦略 策定時の、医療に限定しない国民主体の健康管理という視点が希薄
- 医療機関、審査支払機関、保険者の中で、レセプトの紙出力・再入力があり非効率的な状況

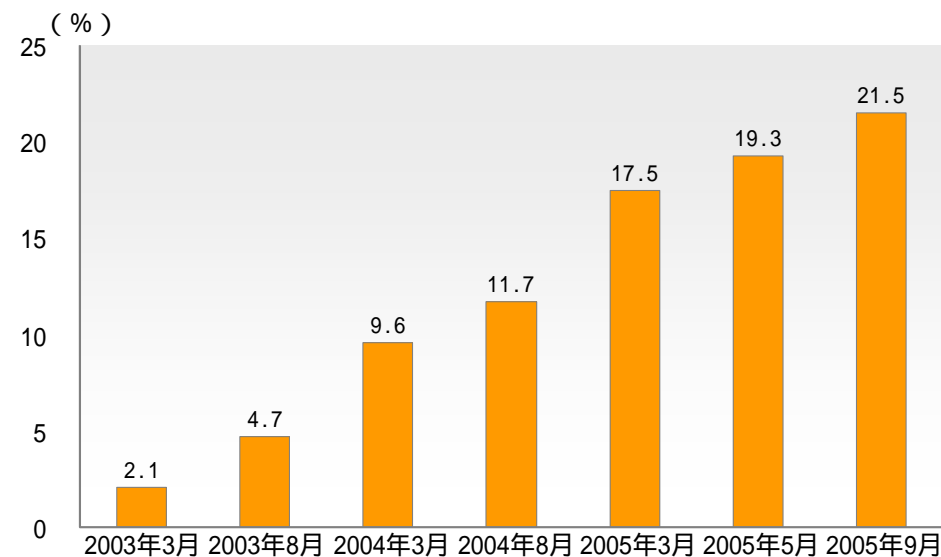
### 今後に向けた提言

- 電子カルテの導入目的を明確化した上で、普及策を採用。健康・医療情報の有効活用を念頭に取り組みを推進
- レセプトのオンライン化については、紙による取り扱いを停止する時期を明確にして取り組みを促進

医療機関のホームページ開設状況  
病院 53.7% 一般診療所 12.9%

電子カルテに基づいて情報提供を受けたことがありますか？  
説明を受けたことはない・・・82.3%

全国の病院レセプトのレセプト電算処理システム普及率  
着実に増えてはいるが21.5%に留まっている

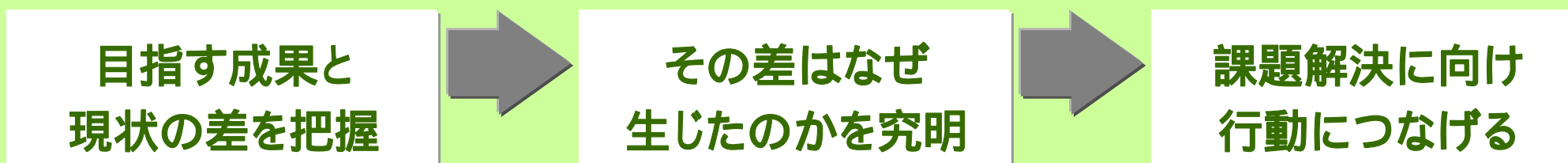


## 今後の取り組み

- 「電子政府・電子自治体」、「教育・人材」、「医療」については、引き続き取り組みを！
- 「環境」、「防災」、「移動・交通」等、生活者にとっての喫緊の課題への確実な対応を！
- 「スーパーモデル構造改革特区」で、資源の集中投入と改革の加速化を！

## PDCAサイクルの確立に向けて

- 全体最適の観点から、行政担当部署自らが、問題可視化と課題共有の継続を！



戦略、戦略の評価を踏まえた新戦略が確実に実施され、評価専門調査会（またはその後継機関）が、引き続きIT戦略遂行に貢献していくことを期待